（様式第８号）

事業報告書（令和６年度）

事業名　SDGs に資する里山の再生事業～南海トラフ地震対策にむけて（9）～

団体名　就実・森の学校　　担当者名　石 田 省 三

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

年間を通して防災協定を締結している周辺町内会からの避難経路、避難地の整備点検を実施。 以下に令和 6 年度の主な活動を列挙する。　　参加者合計　１３４８ 名

① 4 月 14 日	笠井山山頂部整備	一般	５	カクレミノ林の整備
② 4 月 17 日	春を訪ねて（１）	こども園	３５	軽登山、
③ 4 月 18 日	自然観察	小学生	６０	軽登山、植物観察
④ 5 月 5 日	吹奏楽部里山活動	中・高	１１０	軽登山、里山体験
⑤ 5 月 16 日	春を訪ねて（２）	こども園	３５	軽登山、植物観察
⑥ 5 月 22 日	未来創造里山体験(1)	中学生	５０	竹から始まる未来創造活動
⑦ 6 月 7 日	縦割りクエスト（１）	小学校	１８	竹工作講座
⑧ 6 月 23 日	第 33 回グリーンボランティア	一般	９	アカマツ林の整備
⑨ 7 月 2 日	竹細工講座	短大生	６３	幼児教育用工作講座
⑩ 7 月 3 日	七夕用竹飾り	幼・小	１０	七夕まつり準備
⑪ 7 月 11 日	縦割りクエスト（２）	小学生	１８	コナラ植林
⑫ 7 月 28 日	竹林整備	一般	２０	竹林・遊歩道整備
⑬ 8 月 5 日	縦割りクエスト（３）	小学生	１８	里山（森の学校）の歴史
⑭ 9 月 9 日	未来創造里山体験（２）	中学生	５０	竹細工講座
⑮ 9 月 13 日	未来創造里山体験（３）	中学生	５０	成果発表会（文化祭）
⑯ 9 月 27 日	Earth デイ	小学生	１５	小学校内にコナラ植樹
⑰10 月 29 日	野外生活体験	小学生	６０	竹を中心とした野外キャンプ
⑱10 月 31 日	秋の里山探検	こども園	１２０	どんぐり拾い他
⑲11 月 3 日	第 34 回グリーンボランティア	中・高	６４	赤松林整備
⑳11 月 10 日	里山愛好会	一般	２０	炭焼き体験
㉑11 月 24 日	第３５回グリーンボランティア	中・高・大	１０８	赤松林整備
㉒12 月 15 日	里山愛好会(2)	一般	３０	災害時炊出し体験
㉓12 月 20 日	未来創造里山体験（４）	中学生	１０	竹材伐採・搬出
㉔ 1 月 8 日	里山整備	一般	６	ナラ枯れ木処理
㉕ 1 月 17 日	幼稚園里山散策	幼稚園	８４	軽登山
㉖ 1 月 19 日	里山愛好会(3)	一般	３０	竹炭焼成、椎茸植菌体験
㉗ 2 月４日	七輪体験	小学生	６０	災害時対策活動
㉘2 月 19/26	里山散策	こども園	１５０	冬の里山観察
㉙ 3 月９日	TSC 里山体験	一般	４０	里山体験・炭焼き、椎茸植菌

（様式第８号）

２．ESD の視点
①　事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
令和６年度は大小合わせて２９回のイベントを開催した。イベントのテーマは防災、里山環境の保全保護や利用に関するもので多岐にわたっている。また参加者の年齢層も幼児から高齢者まで幅広い。参加者からは「こんな街に近いところに、こんな自然があり、利用の仕方によってはとても価値のあるところですね、また次回も参加したい。」との声がよく寄せられ、２回目、３回目とイベントに参加される人も多い。里山の良さに気づき、自分の生活に生かせることはないかと考えるきっかけになればと考える。 今年度は本事業の重要課題の一つである防災に取り組んで１１年目を迎えるが、能登地震、宮崎地震と大きな地震が発生するたびに、南海トラフとの関係が取り上げられ、その発生確率も徐々に大きくなっているように感じると同時に我々の活動の大切さを実感している。 今年度も例年同様、避難経路を維持するための点検整備、また緊急用エネルギー源として利用するため竹炭・木炭を焼成し、備蓄していく活動を継続的に進めている。また昨年は生活排水施設（自然浸透式から完全排水路設備の新設）を更新したが、今年度は炊事設備の改善及び、避難用テントの更新を実施した。避難用テントは現在 6 基を張っているが、より安全で衛生的な環境が整いつつある。 また「就実・森の学校」の活動は緑の回復にも力を入れている。松食い虫被害により絶滅状態のアカマツ林の再生も重要課題の 1 つとして取り組んでおり一定の成果を上げている。また一昨年度からは SDGs の目標のひとつである気候変動にも注目し、植林したアカマツの二酸化炭素吸収量を調査（岡山県二酸化炭素森林吸収評価認定制度による）したことは、中高生に気候変動と里山の関係性についても考えさせるよいきっかけとなった。この気候変動に対する活動も継続していきたいと考えている。
②どのように学び合いを取り入れたか
本活動は、森の学校の構成員（中・高校生）と地域住民が一体となって活動しているが、複数回参加者が初回参加者にそれぞれの活動技術を教え合うようなシステムが出来つつある。こういった学びのサイクルが確立できればと考えている。
③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
里山から学ぶことは多い。小学校３年生の社会に「昔のくらし」という単元があり、七輪体験の授業を毎年依頼される。この授業では、生徒たちが自分で焼いた炭と松葉で火おこしを体験できるようにしている。わずかな体験ではあるが何かの学びのきっかけになればと思っている。
３．取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

（様式第８号）

南海トラフ地震対策を継続的に実施して９年が経過した。この９年間の中で、森の学校を緊急避難地として地域に開放し、それを徹底するため周辺５町内会と防災協定を締結してきた。また地域と合同で行う防災訓練も毎年小規模ではあるが継続的に実施してきた。さらに岡山市里山センターとの協働事業として防災関係行事も実施している。このように施設の維持管理だけでなく周辺住民の防災意識の向上にも役立っているものと確信し今後も事業を進めていきたい

４．今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

本防災事業は極めて長い計画のもとに実施しており、短期的な成果は求めにくい。
しかし、本事業を継続していくことで、参加者一人一人の防災意識が向上していくことを期待している。また、より本格的な防災地として機能することが出来るよう、資金的な援助についても考えていきたい。

また、就実・森の学校では、操山山系を都市内の森林公園と位置づけ、岡山のセントラルパークとして多面的な利用をめざしている。都市近郊の低山ゆえ、高齢者の散策コースとしての利用度は大変高く本施設を訪問される方も大変多い。快適な山歩きをしていただき、合わせて里山の魅力、防災についての関心も深めていただければと考えている。

その一方で５年前からイノシシによる獣害が急速に進みつつあり、近隣住民は大きな打撃を受けている。これに対し我々や近隣住民は中区役所を始め各方面に対策を要請しているが、対応に時間がかっていることに憂慮している。この獣害は農作業への被害だけでなく、ダニの持ち込み、増殖により引き起こされるハイカーたちの人体への被害も心配され早急な対応が望まれる。また、持続可能な社会の維持の立場からも、地域をあげた思い切った対策を共に考えていきたい。

2024

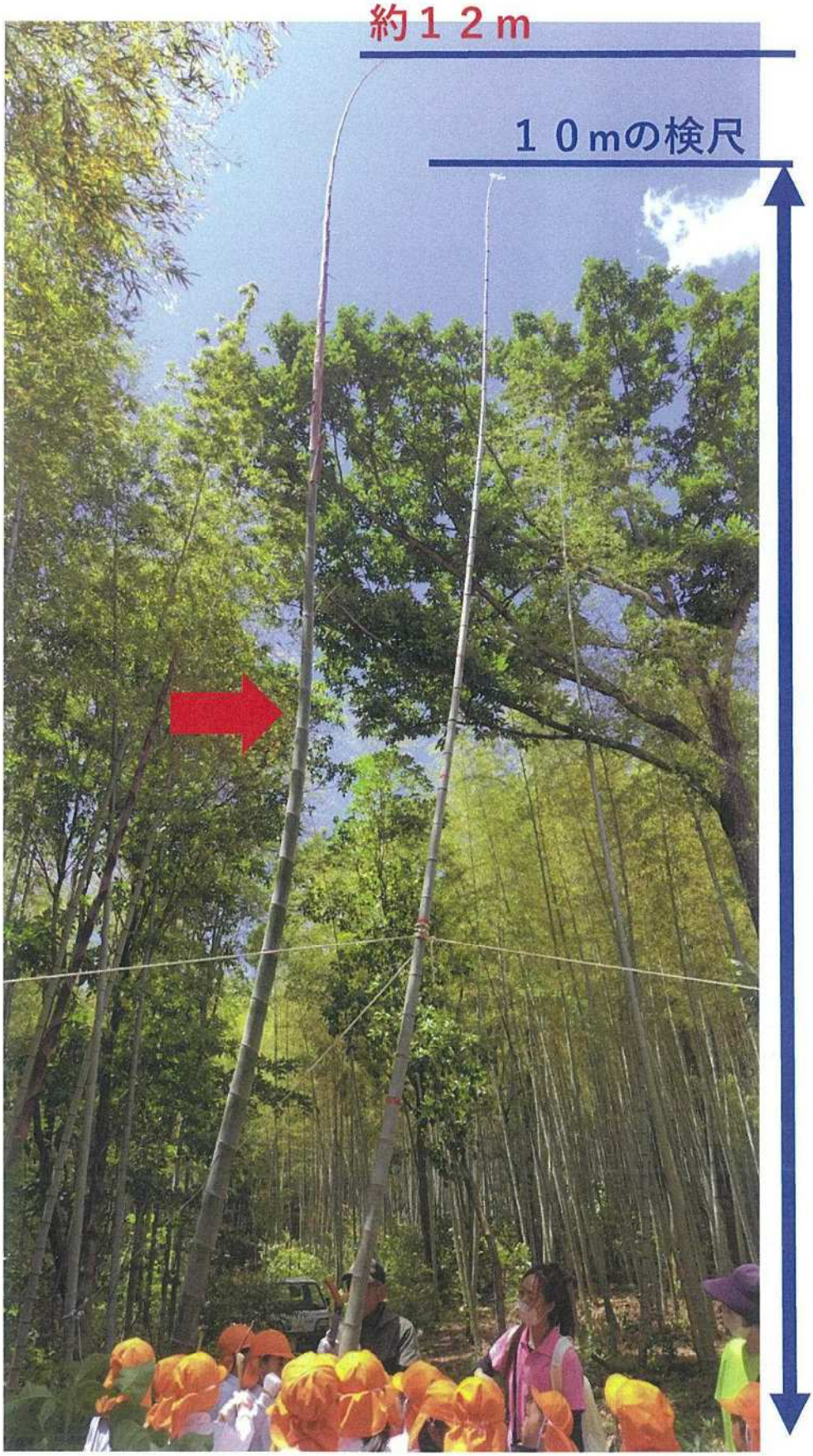
ESD活動報告写真集

1．主な行事の写真を収録
2．定期的に実施している避難経路の点検整備記録を収録
3．避難地における生活環境の改善状況を収録
4．里山整備の記録を収録

就実・森の学校

⑤　春を訪ねて（２）５月１６日

こども園の5歳児が筍の成長の継続観察を行った。４月１７日にマーキングした筍（高さ約５０ｃｍ）だったものが、１か月で約１０ｍにまで成長しており、その成長の早さに驚いていた。この日は竹と木の違いなどを学習して、充実した一日となった。



⑥ 竹から始まる未来創造活動（中一）
5月22日

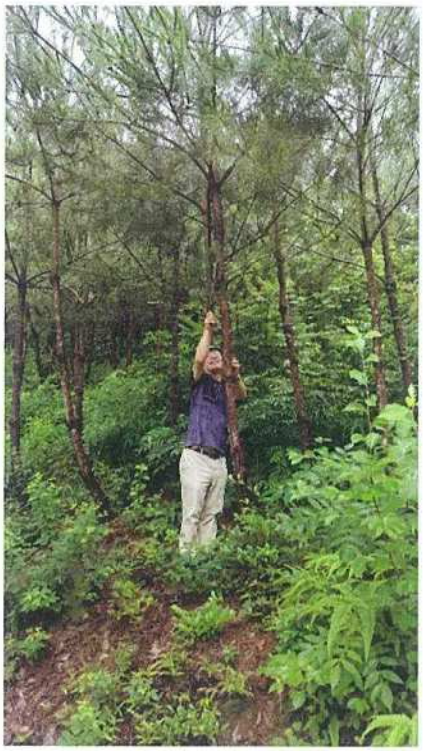
就実中学校未来創造コースでは１２月まで４回にわたり竹を中心とした探究活動を展開していく。この日は第一回目で、炭焼き体験の後、各自自由な発想で竹細工を楽しんだ。

⑦ 縦割りクエスト（１）　小学校１～６年

就実小学校では１年から６年まで各学年３名ずつ、合計１８名からなるグループを作り、それぞれが決めたテーマに沿った探究活動を行っている。竹をテーマとするこの日の活動は「竹ぽっくり」作りだ。

⑧ 第３３回グリーンボランティア

開催日時：令和６年６月２３日
参加人数：９名
実施場所：就実森の学校
植林地整備、



枝打ち

下刈り（１）

除　伐

下刈り（２）

枝打ち木の搬出

⑭⑮ 竹から始まる未来創造活動（中一）

9月9，１３日

文化祭では竹の利用を考える展示や工作体験、竹製品の即売も実施した。

⑲ 第３４回グリーンボランティア

開催日時：令和６年11月　3日
参加人数：ボランティア　**５４**名
　　スタッフ　　**１０**名
　　合計　**６４**名
実施場所：就実・森の学校
　　赤松植林地

枝打ち

松くいにより枯れたアカマツの伐採処理

アカマツ植林地に侵入する竹の伐採

下刈り

⑳　里山愛好会（１）
（炭焼き体験・竹箒つくり体験）

炭焼き体験（炭材投入）

炭焼き体験（着火）

昼食準備（野草採取）

竹箒作り

５～６時間で焼成完了
あとはゆっくり冷まして

㉑ 第３５回グリーンボランティア

開催日時：令和６年１１月２４日
参加人数：ボランティア　**９３**名
　　スタッフ　　**１５**名
　　合計　**１０８**名
実施場所：就実・森の学校
　　赤松植林地

枝打ち

集草作業

第３作業区全景

㉒ 里山愛好会（２）

（炭焼き・竹食器つくり体験）

炭焼き体験（着火）

竹食器用竹伐採

竹食器作り

炭焼き体験（出炭）

清潔感あふれる竹食器

みんなで楽しく七草粥作り、あとは野草のてんぷらだ！

㉓ 竹から始まる未来創造活動（中一）(４)

１２月２０日

この活動グループの最終回では竹を商品化している真備町の企業「テオリ」に竹を出荷する体験を行った。
売上金は里山再生事業に寄付した。

㉖ 里山愛好会（３）

（竹食器作り・炭焼き体験・シイタケ植菌体験）

竹食器用竹伐採

炭焼き体験（着火）

しいたけ種駒接種

炭焼き体験（出炭）

2. 定期的に実施している避難経路の整備

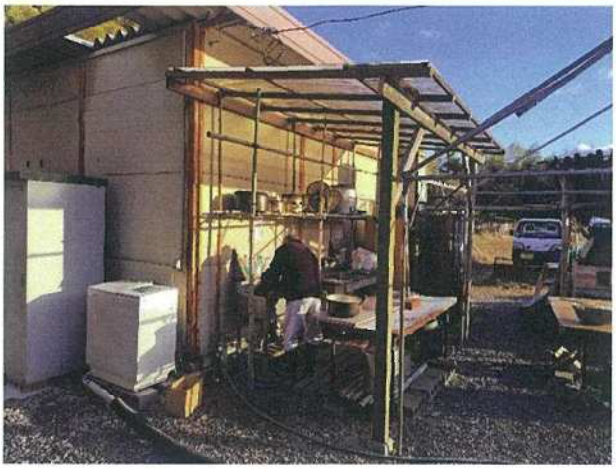
通常３～５名で実施（2024.10.31）

避難地に隣接する第２駐車場整備
（2025.1.25）

避難経路の安全点検（不定期）

3. 避難地における生活環境を整えるための活動

炊事場の整備（小屋根の造成）

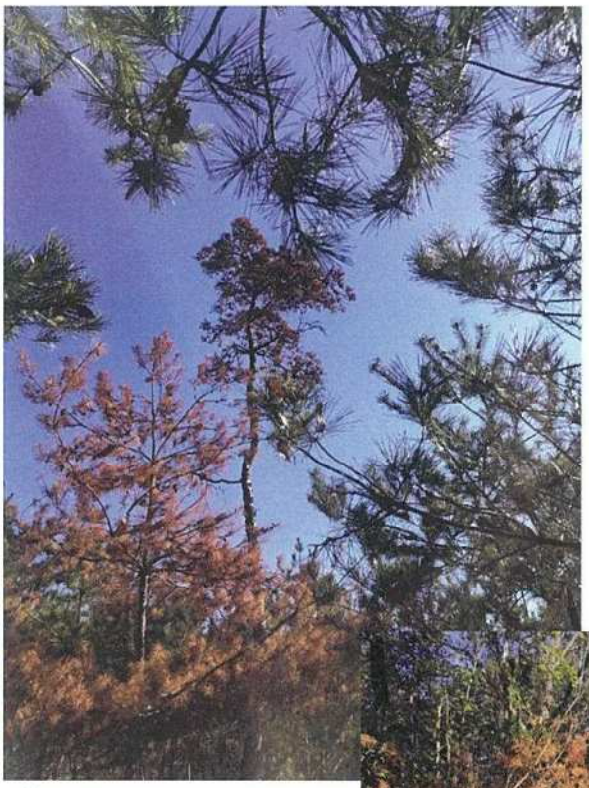


避難用テントの更新（経年劣化のため6張り中３張りが使用に耐えなくなり２張りを更新）

赤矢印が更新したテント

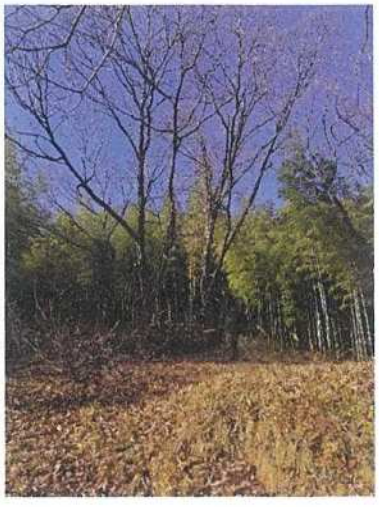
4. 里山整備（枯死したアカマツの伐採処理、ナラ枯れ防止のための点検及び伐採）

アカマツ林の再生のため抵抗性モモタロウ松４０００本を植林しているが、中に松くい虫の害を受けるものがある。春になるとマツノザイセンチュウによる被害の拡大が予想されるため、冬のうちに伐採焼却処理をするようにしている。



⇧約１haの植林地中に数本の成木が残っていたがすべてに被害が見られるようになり伐採した。

焼却処分

７年生程度の幼木

巨木化したコナラ、アベマキのナラ枯れが進みつつあるため、カシノナガキクイムシの痕跡を調査、対応している。